

2026年の夏至は、6月21日（日）です。

6月は国民の祝日がない、一年を通して珍しい月です。

「夏に至る」と書くように夏至を境にして本格的な夏が始まります。

6月21日は「夏至（げし）」。一年のなかで最も昼の長い日です。

2026年6月21日の横浜の昼の時間は約14時間36分です。

日の出：4時25分　日の入り：19時01分

横浜の日の出が最も早い日は、夏至より1週間ほど早く、日の入が最も遅い日は夏至より1週間ほどあとになります。

夏至とは北半球において、一年のうち昼間の時間（日の出から日の入りまでの時間）が最も長い日です。これは太陽の位置が一年で一番高くなる日であるためで、それに伴い日照時間も長くなります。

冬至と比べるとその差がわかります。

夏至の正反対の季節である、一年で一番昼間が短く夜が長い「冬至」との日照時間を比べますと、夏至と冬至で日照時間は5時間弱違います。

緯度によって同じ日本でも地域によって日照時間が異なります。

福岡と北海道だと日照時間に1時間も差があり、北に行くほど日照時間が長くなります。日本は北半球に位置しているため、夏至は一年のなかで昼間の時間が一番長くなりますが、反対側の南半球では昼間の時間が一年で一番短くなります。

北極圏だと夏至の前後の期間は「白夜（びやくや）」となります。

地球は北極と南極を結ぶ自転軸を中心にして回っていますが、白夜はこの自転軸が傾いているために起こる現象で、夏至の前後の期間、北極はずっと太陽の方向をむいています。そのため、夏至の頃は太陽が沈まず一日中明るいままの日が続きます。そして、反対側に位置する南極は、一日中太陽が昇らない「極夜（きょくや）」となります。

夏至今日と思ひつつ書を閉ぢにけり

（高浜虚子）

「今日は一年で一番昼が長い夏至だ」と意識しながらも、普段と変わらずに本を閉じて静かに一日を終える様子が、季節の移ろいと穏やかな日常を美しく対比しています。

今日が夏至であると意識しながら、ふと本を閉じて長い夕暮れの気配を楽しんでいる情景です。

この句は、夏至が梅雨の真っ只中にあり、日本では日照時間の長さを実感しにくいことを、ふとした日常の営みの中で味わい深く表現しているとされています。

